

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	富山県
推進地域名	高岡市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	高岡市立二塚小学校
協力校	高岡市下関小学校、福岡小学校、野村小学校、石堤小学校
関係機関	高岡市教育委員会、西部教育事務所、富山県農林水産部農林水産企画課 富山県栄養教諭・学校栄養職員研究会、富山県栄養士会 ほか

## 2 各都道府県教育委員会の取組

### (1) 食育の方針（取組内容）

- ・ 朝食の内容（栄養バランス、主食・おかずなどの品数等）に対する意識の向上
- ・ 家庭・地域と連携した食育啓発活動

### (2) 実践推進地域への指導・支援内容等

- ・ 市教育委員会、栄養教諭配置小学校と連携し、指導内容の共有やアンケート調査の実施
- ・ 小学校の校区内の人材活用や生産者との触れ合い、各種体験活動の奨励
- ・ 県・市・学校独自のアンケート調査による取組への評価

## 3 具体的な取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導の充実のための取組（教育活動を通して、家庭との連携等）																
評価指標	就寝時刻：10時までに寝る児童 90% ※時間をかけ、朝食を必ず摂取するため 朝ごはんの内容：主食・汁物・おかず1～2品 85% 保護者が栄養バランスを考慮してメニューを考えたり選んだりする：85%																
効果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値との比較</th> <th>5・6月</th> <th>目標値</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○10時まで就寝する児童</td> <td>86%</td> <td>90%</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>○栄養バランスのよい朝食を食べてきている児童</td> <td>79%</td> <td>85%</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>○栄養バランスを考えてメニューを考えたり、選んだりしている保護者</td> <td>78%</td> <td>85%</td> <td>85%</td> </tr> </tbody> </table>	目標値との比較	5・6月	目標値	12月	○10時まで就寝する児童	86%	90%	79%	○栄養バランスのよい朝食を食べてきている児童	79%	85%	82%	○栄養バランスを考えてメニューを考えたり、選んだりしている保護者	78%	85%	85%
	目標値との比較	5・6月	目標値	12月													
○10時まで就寝する児童	86%	90%	79%														
○栄養バランスのよい朝食を食べてきている児童	79%	85%	82%														
○栄養バランスを考えてメニューを考えたり、選んだりしている保護者	78%	85%	85%														
	<p>・ 栄養教諭との学習や給食時間の指導、元気モリモリ集会（学校保健委員会）、年4回実施している強化週間と「元気モリモリチェックカード」により、「バランスのよい朝食の大切さ」が児童に意識付けられ、「4種類（赤黄緑+汁物）の朝ごはんをこれからも続けていきたい」という気持ちが高まるとともに、望ましい生活習慣の定着を図ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>12月</th> <th>2月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「朝食で4種類以上食べた」</td> <td>48%</td> <td>47%</td> <td>55%</td> <td>62%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 保護者と児童が、朝食について定期的に見直す機会（年4会）を設ける中で、保護者の意識の変容が見られた。また、親子で話し合いながら、熱心に取り組んでいる様子がよく分かり、家庭との連携の大切さを改めて感じた。</p>		7月	8月	12月	2月	「朝食で4種類以上食べた」	48%	47%	55%	62%						
	7月	8月	12月	2月													
「朝食で4種類以上食べた」	48%	47%	55%	62%													

〈 保護者の感想 〉

7月：「朝ごはんに4種類揃えるのが大変である」

「暑い夏に汁物を食べてくれない」などの

12月：「子供と一緒に親も意識して取り組むことができた」

「これからもバランスのとれた朝食を心がけたい」

という感想になり、保護者の意識の変容が見られた。

- ・ 保護者・児童対象の各種活動や講演会等を実施することにより、保護者アンケートの「食育の日や食育（推進）月間を知っている」や「地場産物を意識して使用している」「栄養バランスを考えてメニューを考えたり、選んだりしている」割合は、増加した。特に「栄養バランスを考えてメニューを考えたり、選んだりしている」割合は、「考えている」と答えた保護者が、78%（6月）から目標値だった85%（12月）になり、保護者の意識の向上が感じられた。
- ・ 早寝・早起きに関しては、季節的なことも影響したのか、6月に比べて起床・就寝時刻ともにやや遅くなった。10時まで就寝する児童の割合は86%（6月）から79%（12月）と低下した。（目標値は90%）特に高学年の就寝時刻が遅くなってきていた。このことが、朝食摂取率に影響するのではないかと思われるため、生活習慣の見直しにも力を入れる必要がある。

（取組状況）

- ・ 食育アンケートの実施（児童・保護者対象）
- ・ TTによる授業（学級活動、家庭科）や校外学習（卸売市場、農園）
- ・ 生産者との交流（田植え、稲刈り ほか）
- ・ 親子活動（農園見学、朝ごはん料理教室、かまぼこ作り体験 など）
- ・ 朝食・睡眠に関する授業参観及び食育講演会（講師：野菜ソムリエ、対象：児童・保護者）
- ・ 早寝早起き朝ごはん強化週間、チェックカード（年4回「朝からすっきり元気モリモリ週間」、家庭と連携してチェック）
- ・ 児童会による集会「朝からすっきり元気モリモリ集会」
- ・ 学習発表会の食育コーナー設置（アンケート結果や朝食献立の展示）
- ・ PTAと連携した「地場産物を使った朝食料理教室」
- ・ 食育啓発ランチマットの作成、学習指導後配布
- ・ 食育通信の発行
- ・ 学校保健委員会の活用
- ・ 食育推進検討委員会（本年度の成果、来年度の計画）



〈農業体験（稲刈り）〉



〈食育講演会〉

#### 4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 児童生徒の実態を把握し、評価指標を設定するために、富山県独自の生活実態調査「とやまゲンキッズ作戦 ～健康づくりノート～」や学校独自のアンケートを活用したことで、目標を絞り込んで取り組むことができた
- ・ 朝食の内容や朝食を摂取するための就寝時刻の設定等、保護者の協力が不可欠であることから、家庭と連携して進めていけるような活動を多く取り入れた。これにより、栄養バランスを考え、地場産物を意識したメニュー作りや、食育月間等の情報を知っている保護者の割合が増加し、意識の向上が見られた。
- ・ 学年の発達段階に合わせた体験活動や授業を実施することにより、計画的・継続的な食育の見通しがもてるとともに、保護者にも負担のかからない無理のない連携ができた。
- ・ 地域の生産者の指導による様々な体験活動を実施した。これにより、郷土への愛着や生産者への感謝の気持ち、命の大切さや植物への愛情等を育むことができた。また、地域の方々とのチームワークづくりや児童・学校への関心の高まりが感じられた。
- ・ 栄養教諭が中核となって取り組むことにより、学校・家庭・地域のコーディネートがスムーズに進んだ。また、給食主任や養護教諭と連携しながら、学校教育全体での食育を推進することができた。
- ・ 親子料理教室に参加した保護者は、自宅の朝食メニューの改善や、我が子の調理する能力の発見等、食に対する意識の向上が見られた。
- ・ 給食試食会では、保護者に給食参観の観点を知らせ、単に試食をするだけでなく、児童の給食準備や手洗い、食器の並べ方、食事時の態度等を見てもらうことで家庭での指導にも役立てられるようにした。
- ・ 食育啓発ランチマットの作成・配布により、家庭において、朝食の摂取や栄養バランスの大切さを児童・保護者双方が日常的に意識できるようになった。



高岡市の地場産キャラクター「ととまるちゃん」



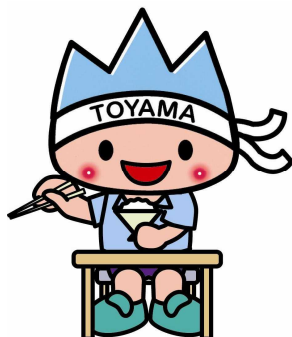
〈食育啓発ランチマット〉

## 5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- ・ 「食に関する指導実践事例集」を作成し、県内全ての小・中学校及び学校給食関係団体等に配布し、栄養教諭の活動等の普及・啓発を図る。
- ・ 給食主任研修会等の各種研修会で、食育の実践事例の紹介や普及・啓発を図る。
- ・ 県栄養士会、県栄養教諭・学校栄養職員研究会の研修会等に於いて、事業成果結果の紹介や普及を図る。

## 6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 小規模校での成果の検証については、栄養教諭が在籍する近隣校や、児童数・学校所在地の環境等が異なる複数校との比較検証をすることが必要である。
- ・ 感謝の心や社会性など、児童生徒に育むことができたかどうかを数値で測りにくいものや、成果が出るまでに時間がかかるものもあるので、その評価方法を考える必要がある。
- ・ 各種アンケートを活用した成果の検証については、プライバシーとの関わりから慎重に実施するとともに、保護者の理解が得られるようにする必要がある。
- ・ 食育推進検討委員会については、学校評議委員会、学校保健委員会、PTAの専門部会等を活用して、学校、PTA、地域の方々、学校医等が集まって話し合う機会を積極的に設けるようにする。
- ・ 栄養教諭が学校や地域で行ってきた取組や実践事例、工夫した資料や教材等を市内に広め、より効果的な食育の推進に努めるために、冊子や各種研修会を繰り返し活用して普及・啓発を図ることが必要である。



元気とやまマスコット  
きときと君